

平成22年 4月 10日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19401034

研究課題名（和文） 古代エジプト新王国第18王朝時代後期の岩窟墓の調査研究

研究課題名（英文） Late 18th Dynasty Tombs in the Theban Necropolis

研究代表者

近藤 二郎（KONDO JIRO）

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：70186849

研究代表者の専門分野：エジプト学、考古学、文化財学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：エジプト新王国 ネクロポリス・テーベ 岩窟墓 アメンヘテプ3世 アマルナ

## 1. 研究計画の概要

古代エジプト新王国第18王朝後半には、アクエンアテン王のもとで所謂「アマルナの宗教改革」が断行され、古代エジプト社会が大きく変容を遂げた時代であった。そうした変容は社会の政治宗教の制度などの問題ばかりでなく、当時、エジプト各地に造営された岩窟墓を中心とする墓の構造にも大きな変化をもたらしている。

そこで本研究では、「アマルナ時代」の直前の時代である第18王朝のアメンヘテプ3世治世下（とりわけ治世第30年以降）で生じた岩窟墓の変遷に関して、テーベ西岸の岩窟墓を中心として研究を行う。アマルナ時代直前のアメンヘテプ3世治世晩年には、それまで見られなかった精緻なレリーフ装飾を墓内壁面に見る大型の岩窟墓が突然として出現するようになる。そうしたテーベ西岸に存在するアメンヘテプ3世治世からアメンヘテプ4世（アクエンアテン王）治世にかけての大型岩窟墓を詳細に検討することによって、その変化の状況とその背景にある社会変化を追及していくことを目的としている。

特に、当該時期のレリーフ装飾を持つ大型岩窟墓の中で20世紀初頭に簡単な調査が実施されたにもかかわらず、その後100年以上も行方不明となっていたテーベ西岸アル＝コーカ地区に位置するテーベ岩窟墓第47号（ウセルハト墓）の発掘調査を行うことで、この時代の墓の変化を追求する研究を遂行する上で重要な資料を提供することを目指していく。この第47号墓は、これまで正確な位置や規模・構造などが不明であり、発掘調査を実施することで、岩窟墓研究にとって極めて重要な成果となることが期待される。

## 2. 研究の進捗状況

エジプト・アラブ共和国における現地調査は、エジプト考古最高会議(SCA)の管理下で実施されている。本研究の主要な研究調査地であるルクソール西岸の所謂「ネクロポリス・テーベ」地域において、新王国第18王朝後期のアメンヘテプ3世時代を中心とする岩窟墓の比較調査に関して特別の許可を受け複数の岩窟墓の細部観察や写真記録を実施することができた。

これまで2007年度から2009年度まで3年にわたり、毎年、冬季に現地における岩窟墓の発掘および比較調査を実施することができた（第1次調査：2007年12月～2008年1月、第2次調査：2008年12月～2009年1月、第3次調査：2009年12月～2010年1月）。その結果、当該地域に存在する第18王朝後期のトトメス4世・アメンヘテプ3世・アメンヘテプ4世（アクエンアテン王）時代の岩窟墓の比較調査を実施し、画像資料やメモを得ることができた。

2007年12月に開始されたテーベ岩窟墓第47号（ウセルハト墓）の第1次調査によって第47号墓の位置を決定することができ、続く第2次調査では前庭部と岩窟墓の入口上部の検出に成功した。その結果、従来言われてきた墓の主軸線が南北ではなく東西方向を示すことが初めて明らかにされた。そのことにも関連し、東に面した墓入口上部に施された精緻なレリーフには、太陽神であるアトゥム神とラー・ホルアクティ神とが配されており、同時代のテーベ岩窟墓192号（ケルエフ墓）の入口上部のレリーフ装飾と酷似していることが明らかとなった。第3次調査では、

岩窟墓入口両脇にある杵柱の全てを検出することに成功し、供養文の全容とウセルハトの称号および図像が新たに発見された。この碑文や図像もまたケルエフ墓のものと類似しており、極めて貴重な図像・文字資料を得ることができた。

### 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

エジプト・ルクソール西岸における 3 回の現地調査によって、当該時期の岩窟墓に関する多くの比較資料の収集を実施することができた。国内における発掘報告書の蒐集も含めこの分野では 8 割ほどの達成度を示している。一方、テーベ岩窟墓第 47 号墓の発掘調査は 3 度にわたり実施されたが、当初の予想と比べ、岩窟墓上部を覆っている崩落砂礫の堆積が著しく多く、計画は遅れている。そうしたことから発掘調査に関しては達成度は 50% ほどである。全体としては 7 割程度の達成度になると考えている。

### 4. 今後の研究の推進方策

これまで 3 回にわたり実施されてきた発掘調査でウセルハト墓の位置や概略的な構造を明らかにすることができたが、まだ堆積および充填砂礫は多く残されており、本年度の現地調査によって、特に岩窟墓内部を覆っている充填砂礫の除去に重点を置いて実施していく。発掘調査以外では、成果として第 18 王朝後期の大型岩窟墓のまとめを実施していく。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

1. 近藤二郎・吉村作治・菊地敬夫・柏木裕之・河合望・西坂朗子・高橋寿光「第 1 次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」『エジプト学研究』16 号、2010 年 3 月 47-77 頁、査読有

[学会発表](計 4 件)

1. 近藤二郎「早稲田大学エジプト学研究所の 2009 年度エジプト調査」日本西アジア考古学会第 17 回発掘調査報告会、2010 年 3 月
2. 近藤二郎「ルクソール西岸ウセルハト墓(TT47)の調査」日本オリエント学会第 51 回大会、2009 年 10 月
3. 近藤二郎「早稲田大学エジプト学研究所の 2008 年度エジプト調査」日本西アジア考古学会第 16 回発掘調査報告会、2009 年 3 月
4. 近藤二郎「早稲田大学エジプト学研究所の 2007 年度エジプト調査」日本西アジア